

がくどうigoサポート&キャラバン事業

川越igoまち倶楽部
(2024年2月作成)

川越igoまち倶楽部は、「地域で子どもを育てよう!」との観点から、子どもたちが囲碁を気軽に楽しく学べる環境を整えるため、担当課と連携し、昨年度に引き続き「がくどうigoサポート&キャラバン事業」(囲碁の出前講座)を実施しました。

1 目的

- 子どもたちに、囲碁の楽しさ・面白さを知ってもらう
- 子どもの人間力を育む(思考力・集中力・判断力・忍耐力・変化への対応力・コミュニケーション力・礼儀など)
- 囲碁講師との世代間交流を通じ、安心感・自己肯定感を醸成する
- 学童保育・教育現場における負担軽減の一助となる

2 事業対象/担当課

- 川越市内の全小学校に併設する「学童保育」32校
／教育総務部 教育財務課
- 放課後子供教室「のびのびスクール」1校
／教育総務部 地域教育支援課

3 実施期間

2023年4月～2024年2月

4 事業内容

- 5月 ●意見交換会・囲碁教え方勉強会(27日)
参加者:市内囲碁団体キャラバン隊希望者等18名
内容:事業内容説明、教え方講座、意見交換
- 6月 ●のびのびスクールにキャラバン隊派遣(8日、12日)
●吉原由香里六段による囲碁勉強会(30日)
(学童保育支援員研修会として)
参加者:学童保育支援員、キャラバン隊希望者等57名
内容:講義、スマホアプリ説明、囲碁体験
- 7月～10月 ●各学童にキャラバン隊派遣の募集(1学期分)
●オファーのあった学童を訪問、囲碁の出前講座実施
●出前講座を実施した学童にアンケート調査実施
●各学童にキャラバン隊派遣の募集(2学期分)
●のびのびスクールにキャラバン隊派遣(10月30日)
- 11月 ●オファーのあった学校を訪問、囲碁の出前講座実施
●出前講座を実施した学童及び実施しなかった学童にアンケート調査実施



吉原由香里六段による囲碁勉強会



囲碁教え方ガイド
(入門指導者用・A4判16ページ)



囲碁勉強会・学童保育支援員の囲碁体験の様子

【キャラバン隊派遣状況】

学童保育

- 2023年7～8月(夏休み中)
⇒以下の15校を訪問、参加児童数 計275名
霞ヶ関北(7/26) 仙波(7/31) 泉(8/2) 高階北(8/2)
川越西(8/3) 大東西(8/7) 川越(8/8) 大塚(8/8)
福原(8/9) 霞ヶ関(8/9) 川越第一(8/16) 中央(8/17)
大東東(8/18) 今成(8/21) 古谷(8/23)
- 2023年11月～2023年1月(2学期・冬休み中)
⇒以下の9校を訪問、参加児童数 計170名
川越西(11/13) 高階北(11/14) 中央(12/4) 牛子(12/25)
大東東(12/26) 霞ヶ関西(12/26) 上戸(12/27) 山田(12/28)
古谷(1/5)

川越小学校・放課後子供教室「のびのびスクール」

- 2023年1学期
⇒2回訪問、参加児童数 計32名(6/8、6/12)
- 2023年2学期
⇒1回訪問、参加児童数 計12名(10/30)

キャラバン隊派遣実績

- ★学校数でカウントすると → 20校
- ★訪問回数でカウントすると → 27回
- ★参加児童数でカウントすると → 延べ489名

キャラバン隊とは？

- キャラバン隊編成：チーフ講師＋サポートスタッフ（4～5名）
- 持っていくもの：解説用大盤（紙）、マグネット基石、対局用7路／9路盤セット、囲碁教室チラシ など

寄せられた声

※学童の参加児童、学童保育支援員のアンケートをもとに作成

参加児童より／囲碁を習って感じたこと



わざわざ教えに来てくれて
ありがとう！

1年生

- ・石を置く場所がわかったら楽しかった
- ・石を2個取れてうれしかった
- ・先生の教え方がやさしかった
- ・友だちとできて楽しかった
- ・むずかしかったけど、がんばった！
- ・初めてのことに挑戦できてうれしかった！
- ・楽しかったよ！ルールも分かったよ！囲碁ができるようになったよ！

2年生

- ・囲碁に興味を持ったので、友だちと遊んでみたい
- ・最初はよくわかんなかったけど、囲碁の先生に教えてもらったからできるようになった
- ・石の周りを囲むことは知っていたけど、陣地の大きい方が勝ちということがわかった
- ・石をマスの中に置くのかと思ったら、線が十字になっているところに置くんだね
- ・囲碁を習ったおかげで、校長先生と対局できた
- ・囲碁はオセロのようなものと思ってたけど、石を置く場所や囲んだら石を取れるということがわかった
- ・囲碁は知っていたけど、ちょっとだけ知らないところがあって、それがわかってよかった

楽しかった！
もっと続けたーい！
また来てね！



川越 igo マスコットキャラクター
「かわ碁え丸」

©川越 igo まち倶楽部

4年生

- ・囲碁の難しさと楽しさを知った。来年もやりたい
- ・学童での遊びが増えた。またレッスンを受けて、もっと強くなりたい
- ・囲碁の「囲」という漢字は井を口（かこむ）と書くので、囲碁のルールに似せているんだと思った
- ・3年の時から習っていて、対戦が楽しく、オセロと違うところがいいなと思った
- ・囲碁は、将棋と同じ戦略ゲームだと思った

3年生

- ・頭をいっぱい使うので、よく考えなくちゃだめだとわかった
- ・ルールがわかったので、普段の学童でも囲碁で遊んでいる
- ・習ってみたら囲碁ってとっても面白いものなんだと思った。楽しいので4年生になっても続けたい！
- ・囲碁のアプリを入れた
- ・囲碁のやりかたがわかったので、知らない人に教えてあげたい
- ・弟に囲碁のやり方を聞かれ、すぐに答えられた
- ・相手の次の動きを読むのが楽しくなった
- ・アタリになったときの逃げ方がおもしろく、囲碁もわるくないなって思った

5・6年生

- ・ルールを覚え、活用できるところがわかって嬉しかった
- ・囲碁を習って、友だちと一緒に遊べるようになった
- ・五目並べぐらいしか知らなかったけど、囲碁講座のおかげでルールを知ることができた
- ・囲碁を打てるようになり、勝つと自分が上達しているのを感じ、貴重な体験をしたと思う
- ・囲碁はしたことがなかったけど、「ここに置けば石を取れる」と考えることができた

学童保育（はじめての囲碁体験）▶



学童保育（石を取る問題）



学童保育（チーム対抗リレー碁）

囲碁講座の内容

- ① 囲碁の基本ルールを大盤で解説（子どもの反応を見ながら、やさしく）
- ② 子ども同士でお試し囲碁体験（きめ細やかにサポート）
- ③ 対局中に生じた疑問はみんなで共有（大盤で解説）
- ④ 子どもも支援員の先生も一緒に、チーム対抗「リレー碁」

学童保育支援員より

キャラバン隊を希望した理由

- ・昨年度に実施し好評だったから
- ・長期休暇のイベントとして定着させたい
- ・支援員も、児童と一緒に学びたいから
- ・夏は猛暑で外遊びができなかったので助かった
- ・礼に始まり礼に終わる囲碁を通じ礼儀を学んでほしい
- ・昨年参加できなかった児童にも体験させてあげたかったから
- ・支援員では提供できない遊びを導入する機会としたかった

キャラバン隊を希望しなかった理由

- ・日々の保育に追われ、すでに体制を確立しているので余裕がなかった
- ・低学年が多いため、基石で遊んだり、思い通りにならないと投げるかもしれないと懸念
- ・支援が必要な児童が多く、落ち着いてできるか不安だった
- ・すでに他の行事を予定していた
- ・「囲碁を知っているか」児童に聞いたところ、「知らない」児童が多かったから



対局用碁盤セット
とテキスト



のびのびスクール（石を取る問題）

囲碁講座を実施して良かったこと

- ・普段見せる児童の顔と違い、真剣に取り組んでいる児童の顔が見られて良かった
- ・支援員以外の人と触れ合い、程よい緊張感の中で楽しんでいた
- ・囲碁を通じ、異学年の交流ができた
- ・講座最後に行われた全員参加の連碁（リレー碁）は、自分の番が回ってくるのをワクワク、ドキドキしながら楽しんでいた
- ・囲碁セットを独自に購入し、各クラスに配置したところ、興味を持って遊んでいる
- ・長期休暇中は連日、朝から夕方までの保育のため、支援員の負担軽減になった

感想

- ・児童の好奇心と集中力に驚いた
- ・外部の人と交流ができて良かった
- ・保護者会の協力を得て、親子参加ができるとうい
- ・低学年の児童が多いと集中力が切れてしまうので、説明や時間配分を一考いただければ
- ・多学年が混在すると理解度が異なるので、対象学年をキャラバン隊で指定してほしい
- ・支援員が囲碁を理解できないと児童に遊びとして教えられないので、支援員に教えてほしい

囲碁の出前講座で心がけたこと

～心身の発達段階である子どもに寄り添い、子ども目線で～

- ★興味を持ち、楽しんでもらうことが第一
- ★説明はわかりやすく、簡潔に
- ★「教える」のではなく、「気づき」を促すように
- ★碁を通して礼儀・マナーを実践
- ★世代を超えた講師との触れ合いで、安心感・自己肯定感を育む



のびのびスクール（石取りゲーム）

良かったこと

- ・子どもたちが一度でも囲碁に触れることは貴重な体験で、将来的に、この学びを実感できる場面が出てくるのではないかと思います。
- ・子どもたちが明るく元気で、教える方もやりがいを感じられた。
- ・支援員の方々が囲碁に興味をもち、子どもと一緒に参加してくれるところもあり、嬉しかった。
- ・得意そうにルービックキューブ（パズル）を解いて見せてくれる子がいた。普段一緒にいる友だちや支援員の先生以外の人たちが来るというのは、子どもたちにとって、新鮮でワクワクする体験なのでは、と思った。
- ・大盤で問題を解く場面では、教室中から「ハイ！」「ハイ！」と元気に手が挙がり、その子どもたちの姿をととても頼もしく感じた。

さらなる工夫

- ・回を重ねると、囲碁を経験した子と初めての子が混在することが多くなる。クラス分けが必要かもしれない。
- ・学年によって理解度が違う。ある程度（低学年と高学年くらいには）揃えてもらった方が教しやすい。
- ・石取りゲームは面白いが、それだけでは「陣地を囲う」感覚がつかめない。石を取ることを考えず、相手よりも広い陣地を囲む「陣取りゲーム」をやってみたらどうか。
- ・説明の時間がどうしても長くなってしまふ。極力対局時間を長くする、子どもに答えさせるなどの工夫が必要では。
- ・現在は希望する学童に「広く浅く」教えているが、これでは囲碁をきちんと覚えるのは難しい。対象の学童をしばり、回数を増やすやり方も必要ではないか。

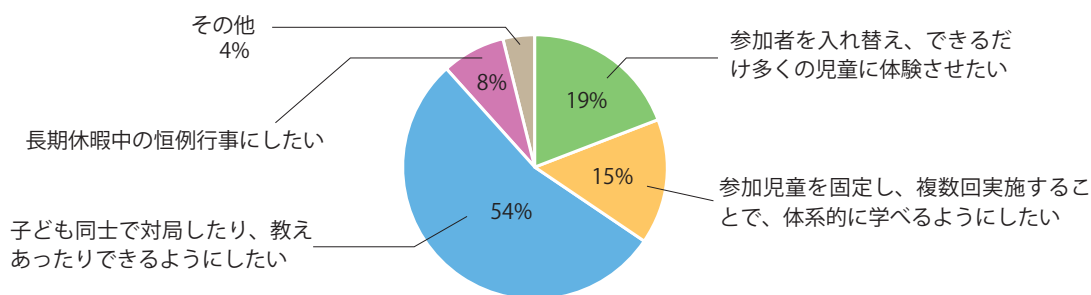
新たな試み

- ・心強い応援団＝猛暑の中、シニア講師の負担が大きいことを懸念し、囲碁に精通した大学生・高校生・中学生・親子囲碁教室の保護者に協力を要請。
- ・コミック「ヒカルの碁」寄贈＝1～5巻 10セットを市に寄贈。（写真右）
- ・近隣自治体の学童保育からもオファーがあり、出前講座を実施。



川越小学校に「ヒカルの碁」を寄贈
（左：校長先生 右：赤松会長）

囲碁講座 今後の方向性 ※学童保育支援員のアンケートをもとに作成



まとめ

学童保育支援員・放課後子供教室スタッフとその在籍児童、およびキャラバン隊員から、貴重なご意見をいただきました。それらの声に耳を傾けると、「がくどう igo サポート&キャラバン事業」が、教育の場に、確実に根を下ろしつつあることがわかりました。

よって、関係各位のご理解・ご協力をいただきながら、今年度の経験と実績を踏まえ、引き続き取り組んでまいります。併せて、次なる担い手にバトンタッチする環境づくりも、視野に入れたいと考えています。

【人と人・人とまちをつなぐ囲碁で、文化・知性・子どもたちの未来を拓く】

川越 igo まち倶楽部

〒350-1138 埼玉県川越市中台元町 2-7-12

TEL&FAX 049-245-3439 (事務局・木村)

✉ igomachi@ki-la.net ホームページ <https://igomachi.sakuraweb.com/>